

わが恩師 石川馨先生による台湾への QC サークルの導入と発展

鍾 朝嵩

はじめに

石川馨先生の生誕 100 年記念国際シンポジウムで、「わが恩師 石川馨先生による QC サークル導入と発展」というテーマで講演ができることを非常に光栄と思っています。

1962 年、私は台湾から留学生として日本に来ました。当初は繊維工学を学んでいましたが、日本が米国の SQC を導入、日本製品が急速に世界に躍進する姿を見て、非常に震撼し驚嘆しました。私が台湾においても企業のレベルアップが経済発展・繁栄をもたらす唯一の手段と確信しました。

そこで、私は QC の奥義を究めようと決心しました。やがて念願がかない、私は東京大学大学院石川研に進学し、石川先生の下で QC の研究に専念することができました。日科技連の QC 研究会にも参加し、帰国するまでかなり深く QC の基礎を習得することができました。

私は 1968 年に日本から台湾に帰国しました。日本で学んだ QC を台湾の経済発展と繁栄に少しでも役に立てようと大学で QC 講座を開き、多くの企業で QC コンサルタントとして指導を行いました。帰国する際、石川先生に「台湾の経済の発展に力を注ぐように」と励まされたことがいつも頭の中に残っていました。1970 年、「先鋒企業管理発展中心 (Pioneer Enterprise Think Tank : PETT) を設立。その後、財団法人先鋒品質管理学術研究基金会 (Association of Pioneer Quality Research : PQCRA) を設立。QC 関連事業を展開し、台湾における QC のレベルアップと国際競争に負けない製品品質の向上に尽力してきました。

石川先生による台湾 QC サークル活動への影響

石川先生は 1970 年から常に台湾 QC 活動の発展に関心を示し、具体的に助言をしてくださいました。1980 年代、台湾の経済が発展し新興国のトップに成長した

ことに、QC サークルの成功が非常に大きな役割を果たしたと思います。以下では、石川先生による台湾 QC サークル活動への影響を述べます。

1. 台湾の「QC サークル特別講座」と「第 1 回全国 QC サークル大会」

一番目は、台湾の「QC サークル特別講座」と「第 1 回全国 QC サークル大会」です。1970 年、PETT が「QC サークル特別講座」と「第 1 回全国 QC サークル大会」を開催した際、石川先生は石川研の仲間 5 人を連れ応援に駆け付けてくれました。狩野先生もいらっしゃいました。これは当時、私たちが飛行場で石川先生一行を歓迎した写真です。「QC サークル特別講座」では石川先生、狩野先生、私の 3 人で講義しました。この講座と全国 QC サークル大会は台北と高雄の 2 カ所で開催されましたが、参加者が非常に多く、私たちは「盛況空前」と言って喜びました。

「QC サークル特別講座」の開催前、台湾企業の幹部たちの多くは、QC サークルは台湾の民族性に合わない、台湾で実施しても成功しないと主張していましたが、石川先生の説得力ある講義を聴いた後、ほとんどの参加者が QC サークルは台湾でも通用すると確信し始め、台湾の民族性にも合うと新たに認識することができました。この「QC サークル特別講座」と「第 1 回全国 QC サークル大会」後、台湾の QC サークル活動が熱烈に盛り上がりました。

この講座と大会に参加した各企業の関係者たちは、本当に正しい QC サークルの意義と実施方法を理解し、また大会の刺激を会社に持ち帰った後、多くの人たちが QC サークル活動を始めました。これにより、台湾の QC サークル活動が新しい紀元に邁進しました。2015 年 7 月の大会で、全国 QC サークル大会は 198 回を数えます。

2. 日本の QC サークル洋上大学と台湾の交流

二番目は、日本の QC サークル洋上大学と台湾の交流を紹介します。1971 年から年 1 回、1983 年から年 2 回開催されている日本の QC サークル洋上大学では、石川先生が学長として 300 名の QC サークルメンバーと講師団を引き連れ、日本の横浜を出航し台湾の基隆に上陸されました。日本の QC サークルメンバーは 10 組に分かれ、台湾 10 社の QC サークルと交流会を行います。これは、

台湾と日本の QC サークル活動の相互啓発に良いチャンスだとみんなが喜びました。

晩餐会では石川先生の話をお聴き、また先生と一緒に食事できることも台湾の参加者にとって非常に感激なことでした。この交流を通じて、日本の新しい活動方法、新しい実施方法をたくさん吸収することができ、台湾の QC サークル活動のレベルアップに非常に大きなプラスとなっております。

3. 国際 QC サークル大会 (ICQCC)

三番目は、国際 QC サークル大会 (ICQCC) です。QC サークル活動は日本で大きな成果を得ました。1970 年、台湾も QC サークルを導入し成果を上げました。1975 年、私と日科技連の野口事務局長、韓国規格協会の趙事務局長、3 人による協議で日本、韓国、台湾、3 カ国・地域の QC サークル交流大会を年に 1 度開催し、参加国が順番で主催することを決めました。

1976 年、韓国の主催で第 1 回国際 QC サークル交流大会を開催しました。これは 1983 年の QC 国際会議の野口さんと趙さんと私と 3 人で ICQCC 国際会議を始めました。石川先生と狩野先生も一緒です。

1983 年には、台湾、日本、韓国のほか、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インド、タイ、香港を加えた 9 カ国・地域が台湾で ICQCC Coordinating Committee を組織し、ICQCC 1983 の Taipei Coordinating Committee Meeting で、年 1 回持ち回りで国際 QC サークル大会を主催することを決めました。これが現在の ICQCC の活動です。これは 1983 年の国際 QC サークル大会の模様です。

石川先生はご健在のとき、どんなにスケジュールが忙しくても台湾が主催した国際 QC サークル交流会と国際 QC サークル大会には毎回必ず出席し、特別講演をしてくださいました。大会を盛り上げ、参加者たちに大きな感激を与えてくれました。

4. QC サークル石川賞

四番目は、QC サークル石川賞です。私たちは石川先生の台湾への QC サークル導入と推進に対する卓越な貢献を感謝することで、1976 年に「QC サークル

石川賞」を設立しました。「QCサークル石川賞」は全国QCサークル大会に初参加した会社のうち、新しい意義ある内容を発表したQCサークルに対して与えられます。「QCサークル石川賞」の楯の上には石川先生のサインが刻印されており、この賞を獲得することは非常に光栄なことです。「QCサークル石川賞」は、台湾のQCサークル活動の普及に非常に大きな貢献をしていると思います。

5. 経営者CWQC一泊二日の講座

五番目は、経営者CWQC一泊二日の講座です。石川先生は常に台湾品質管理の発展に有益な助言をしてくださるほか、1970年～1987年までの18年間、多忙にもかかわらず毎年1回以上は台湾で「一泊二日の経営者CWQC講座と座談会」を開催されました。参加者は、台湾企業のトップ経営者、董事長、総経理と経営幹部を対象としており、それ以外の人には参加できませんでした。台湾のトップ経営者が自ら積極的にリーダーシップをとって、QC活動を推進するのに非常に大きな貢献をしました。これは石川先生とトップの皆さんが懇談しているところです。

1987年10月16日、17日の「経営者CWQC講座と座談会」は、石川先生最後の台湾スケジュールでした。その講義の内容は、日本企業の自由化・国際化に伴う経験、円高に対する日本業界の対応、外注管理とCWQC、日本中小企業におけるCWQC運営状況、CWQC成功の秘訣、グループディスカッションと発表、CWQCに関する座談会、総合質疑応答というものでした。（スライドを指しながら）これは石川先生の講義の後の参加者の模様です。

このとき、先生は少し痩せ、曲背になり、咳をされていて多少心配でした。講義になるといつものように凜然とした姿で現れ、講義をされる様子は非常に印象的でした。意気軒昂として世界に活躍する姿は、私たちにインスパイアしてくれました。（スライドを指しながら）これは先生の最後の講義の写真です。

石川馨先生の私に対する最後の教え

次は、石川先生の私に対する最後の教えを述べます。私が日本留学から台湾に帰国した後も、石川先生は常に私のことを気にかけてご指導くださり、毎回講義後はホテルで一緒に水割りを飲み、先生の教示をいただきました。1987年

11月14日、恩師石川先生の最後の手紙を受け取りました。その内容の一部を皆さんに披露します。

「PETT が日本から講師を頼むときは、日科技連の小大塚君に窓口になるよう頼んでおりますから、小大塚君に連絡してください。講師名がわからないときは小大塚君に言ってくれば、私か狩野君が適当な人を考えます。洋上大学での企業への答礼パーティーについては日科技連が企業および PETT に対してお礼のために行うものですから、今後その点をはっきりさせて行いましょう。横田部長にも言っております。この点、貴兄も大人になって、経営者らしくなって、QC 学会も併せ吞んで台湾の QC、CWQC、QC サークルを進めて、台湾をよくするのだと、意気込みをはっきりさせて、みんなをうまく引っ張っていき、台湾をよくしてください。また、後継者を備えて鍾君の代わりに講義、指導できる人をどんどん養成してください。お元気で、バンコクで12月に会いましょう。」

この親切な手紙からおわかりのように、石川先生に対する私の思いは、師を超えた最も感謝すべき尊敬と親しい恩師です。

おわりに

石川先生の功績は、日本だけでなく全世界にも大きい影響を与えました。特に台湾では、1970年代早くから QC サークルを導入し、推進に成功できました。石川先生の台湾の QC、CWQC、QC サークルに対する熱心で継続した長期的な指導と支援のおかげだと思っています。(スライドを指しながら) これは 2013年 ICQCC 台北の QC サークル国際大会のときの写真です。

1975年以降、台湾の製品品質が非常によくになり、台湾製品も急速に国際競争に強くなり、「Made in Taiwan (MIT)」は世界市場で台湾の誇りになっています。1980年代、台湾の GDP 成長率がアジアの中でトップになりました。これらもみんな石川先生の功績によるところが大きいと思います。

石川先生の品質管理の哲学思想は、全世界に対して過去、現在そして未来、永遠に変わらない「金科玉律」です。

最後に、この国際シンポジウムの場をお借りして、石川先生に深く感謝の意を申し上げます。どうもありがとうございました。

しょう ちょうそん
鍾 朝嵩

財団法人先鋒品質管理学術研究基金会 (PQCRA) 栄誉董事長

【略歴】

- 1967年 日本東京大学工学研究科石川研究室 卒業
1970年 先鋒企業管理発展中心 (PIONEER ENTERPRISE THINK TANK PETT)
総経理
1973年 中華民国品質協会第10回品質管理個人奨 受賞
1975年 中華民国經濟部商品検験局 品質管理顧問
1982年 財団法人先鋒品質管理学術研究基金会董事長
1991年 第2回中華民国国家品質賞個人奨 受賞
1970年～2001年
私立中原大学、国立成功大学工学研究所、国立中央大学統計研究所
QC講座兼任教授